

# 札幌市立手稲中央幼稚園

〒006-0022

手稲区手稲本町2条5丁目13-1

## 【手稲区星の子幼稚園との合同研修】

以前から園児の交流・研究実践園研修への参加などを通して連携を図ってきた。

平成27年度からは自園の園内研究に、星の子幼稚園の先生方に参加を呼びかけ、研究内容を共有したり、保育に関わる情報交換をしたりして、保育の質の向上を目指した。実践事例に関することのみならず、それぞれの保育の工夫や悩みなどを、具体的に交流することで、互いの保育実践について理解を深め、共に学ぶ機会となった。



【実践事例を通して保育について意見交流】

## 【方法】

- ・自園の実践事例研究日（年間4回）に星の子幼稚園の先生方が参加し、意見交流する。
- ・研究実践園研修・地域公開保育に星の子幼稚園の先生方が参加する。

## 【成果】

- ・異なる幼稚園環境の中でも、『子どもの健やかな成長』という共通の願いをもち、保育に取り組む他園の先生方と学ぶことで、地域の子どもたちを育む者同士の共感や連帯感を得ることができた。
- ・合同研修を通して、自園の保育活動の在り方を振り返ったり、自分の保育について伝えようとしたりすることで、改めて、保育のねらいや具体的援助、そして課題について考えることができた。



【研修後の意見交流も活発！】

## 【次年度に向けて】

- ・星の子幼稚園の先生方に来園していただくばかりだったので、本園からも訪問することを考えたい。
- ・本園の実践事例だけでなく、互いに実践事例を準備できるよう、負担にならないような事例の記載形式を工夫したい。
- ・地域の他の幼稚園等にも参加を働きかけていきたい。

- ・いろいろな先生方と意見交流し、保育の中の様々な工夫について知ったり、子どもたちの成長する姿や課題を客観的に捉えたりする機会となった。
- ・合同研修で得たことをそれぞれの保育に生かすことで、保育の質の向上につながったと感じる。

# 星の子幼稚園

〒006-0853

手稲区星置3条8丁目1-10

## 【手稲北小学校との交流】

毎年2月に年長児が小学校に行き（今年度は、3月に実施）、1年生と一緒に校内をスタンプラリーをしながら周り、幼稚園にはない教室を教えてくれる。

探検が終わると一緒にぬりえをしたり折り紙を教えてもらったりする。

5年前ぐらいから、幼稚園の運動会を小学校のグラウンドで行うようになった。

今年度は、児童公開日に発表会を見学させていただいた。



【小学生と幼児が対面して話を聞いています】

## 【成果】

- ・ 交流を続けたことや幼保小連携推進協議会が定期的に行われた事で、交流の回数が徐々に増えてきた。
- ・ 児童と交流したり小学校生活に触れたりすることによって、入学時の不安や戸惑いを軽減することができた。
- ・ 小学生が幼稚園に気軽に来て、普段から交流する機会も増えた。

## 【考察】

- ・ 幼保小連携推進協議会が、定期的に行われた事によって幼保小の交流が活発になってきた。
- ・ 校長や園長など一部の教員の交流は、増えたが一般教員の交流がなかった。
- ・ 教育内容や子ども理解などお互いの教育について具体的に情報を交換する会を定期的に行われるとより良い連携に繋がるのではないかと。



【折り紙を教えてもらっています】

## 【次年度に向けて】

- ・ 小学1年生の教員と卒園児の担任で、子どもたちの相互理解と交流を深めたい。
- ・ 教員が、お互いの授業や保育を体験し情報交換を行いたい。

## 【あかつき山口保育園との連携】

### 運動会

- ・1年生の表現発表に合わせて、見学に来ている。
- ・保育園の運動会に兄弟姉妹の関係で本校児童が参加している。

### 学習発表会

- ・児童公開日の日に1年生の演目発表を見学に来ている。

### 入学説明会

- ・冬休み明けに初めて小学校に入学させる保護者の不安を軽減できればと考え、プチ説明会を開催している。(4年目)

### その他

- ・総合的な学習の時間で健康教育の一環として「妊婦体験」や「育児体験」として保育園と連携して本校の5年生が体験活動を行う。(現在は赤ちゃん人形などを使用して実施している。)

## 【成果】

- ・現在、園児と児童の交流は行っていないが、園と学校のつながりを維持することはできている。
- ・新一年生の保護者だけでなく、園の先生方にも小学校での活動や行事を知ってもらい良い機会となっている。
- ・保育園としては、年長さんを中心に学校の様子を実際に見せることで「わくわくする」「たのしそう」「おもしろそう」「自分もやってみたい」など期待を膨らまし、小学校への入学に前向きな気持ちや態度を育てることができている。

## 【考察】

- ・学校が中心となって進めているが時期や内容など保育園の事情もあり、交流の実施は難しい面があるが、つながりは密にしておくことが大切だと考えます。
- ・保育士と教師が交流することで新一年生がスムーズに学校生活をスタートができるのではないかと。入学するまでに「どのようなことができるようにさせておくとよいのか。」を知りたいという声が出ていた。
- ・入学説明会は、各学校で行っているが、なかなか聞きたいことが聞けないという声があり、園として開催してほしいとの要望を受け、学校と相談して平成24年度から行っている。本校に入学しない卒園児の保護者でも気軽に聞くことができ、「分かりやすい。」「聞きやすい。」「不安が少しはなくなった。」などプラスの声を聞くことができた。
- ・年長が来校するので、新一年生になる子どもたちの様子を見ることができ、1月に行う引継を含め、新年度の学級編成にもつなげることができている。



1年生の発表を見学する園児たち

## 【富丘つくし幼稚園・つくし保育園・さより第2保育園との連携】

本校の校区には上記の3つの幼稚園・保育所があるので、小学校児童と幼・保の園児が関わる場を設定しやすいという特長がある。以下3点は、ここ数年取組を続けている活動である。

### ① 園児と5年生の交流

富丘つくし幼稚園の朝の自由遊びの時間にお邪魔させていただき、園児の皆さんと交流した。クラスごとに3日間、園庭や室内でたっぷりと触れ合った。



### ② 学習発表会への招待

つくし保育園、さより第2保育園の年長児を学習発表会に招待し、1年生の表現の様子を見てもらった。行事に参加することで、学校生活のイメージをもってくれることをねらいとしている。

### ③ 生活科「ゲームランド」への招待

1年生の生活科「ゲームランド」では、手作りのおもちゃやゲームを作ってお店を開く。その際に、上記3園の年長児をお客さんとして招待し、1年生は年上気分に浸りながら、園児たちと触れ合った。やってくる園児が100名を超えるので、今年は、園児たちを半分に分け、5年生とも集団遊びを通して2回目の交流を行った。

## 【成果】

本校の重点である「思いやりいっぱい心の学校」の達成のために、他者との関わりは欠かせないものだと考える。中でも、自分より年下である園児との交流は、相手意識を確実に育ててくれるものだと感じている。

## 【今年度からの新しい取組】

入学に不安を抱いている幼児がいるということが、幼保小連携協議会の中で話題となり、今年度から、年長児による学校探検を行っている。上記の②③、就学時健診、一日入学と来校が続いたことで、当該児の不安も解消されてきている。



## 【今後に向けて】

小学生と園児の交流は、小学生にとって価値の大きい経験となるとともに、園児にとっても入学の準備期間としてのメリットがたくさんあると感じている。小学校に楽しいイメージをもつ取組を今後も模索していく。

### ① 学校探検

小学校の教師が案内する形で行っている園児の学校探検は、5年生が主体となって学校の魅力を伝える取組にしていきたい。

### ② 三樽別遊水広場

校区内にある川に遊水広場が設置される。隣の公園と併せて交流する場所として活用していきたい。

# 札幌市立新陵小学校

〒006-0806

手稲区新発寒 6 条 6 丁目 3-1

## 【幼稚園、保育園との連携】

本校では、校区内にある松葉幼稚園との交流を2年生の生活科の学習に位置付け「スマイルランドにご招待」として、園との交流を毎年実施している。今年度は流行性耳下腺炎の流行のため、交流は中止になってしまった。しかし、幼稚園の子どもたちと交流することを楽しみに、熱心に活動・準備に取り組む2年生の姿を見ることができた。また、準備したスマイルランドを全校の児童に楽しんでもらう機会を設けることができ、満足感も得ることができた。

また、手稲区の幼保小連携推進協議会でそれぞれの学び方の違いが話題になった。そこで、実際の様子を知るために、本校の職員が近隣である新発寒たんぽぽ保育園と松葉幼稚園へ訪問し、各園での学習や生活の様子を見学した。

## 【成果】

入学する前の園児の学習や保育の様子を見ることで、ギャップが生まれにくいよう配慮すべき事など、保育園や幼稚園から学ぶべき事がたくさんあった。

また、支援が必要な園児の情報を交流したり、実際にその様子を見たりすることで、入学後の支援体制など、小学校として準備することができた。

## 【考察】

幼保小で連携して年間を見通した活動を組む必要がある。その際、何を大切にしたら交流なのか双方のねらいを明確にして取り組むことができるよう、教職員同士の交流を定期的に行っていくのが望ましいと考える。



昨年度の交流の様子



今年度の交流の様子（1年生と）



幼稚園訪問（給食準備・学習の様子）

## 【子ども同士の交流活動】

### ①学習発表会への招待

11月18日（水）・19日（木）の両日に行った『第28回学習発表会児童公開日』に稲穂中央保育園とやまなみ保育園の両園から年長児約40名を招き、1年生の劇『まねっこさるさん』の劇を観覧した。

おさるのおもしろい動きやかけ声に大きな笑い声が響いていた。



＜1年生の劇を参観する園児＞

### ②6年生と幼稚園年長クラスとの交流（手稲smileプロジェクト：「総合的な学習の時間」）

9月17日（水）に校区内にある手稲育英幼稚園の年長クラス42名と6年生75名が幼稚園で交流した。

＜ねらい＞

- ・「手稲のよさ（自然・手稲をテーマ）」を地域の方々と交流で感じたりする。
- ・自ら課題を見付け、主体的に活動することでよりよく問題を解決する資質や能力を育成する。

＜交流内容＞

- ・まとあて ・ペットボトルホーリング ・輪投げ ・折り紙 ・アンパンマンごっこ ・お店屋さん ・南中ローラン他



＜園児を並ばせる6年生＞

## 【成果】

### ・「学習発表会への招待」

日頃一番年下の存在として生活している1年生は、自分より年下の幼児に立派な姿を見せようといつもより頑張る姿が見られた。観覧に来た幼児たちも緊張感をもって参加し、学校の雰囲気を感じていた。

### ・「6年生と幼稚園年長クラスとの交流」

本校初めての交流である。幼児たちも心から楽しんでいた様子が見られた。幼稚園側の準備が良かったおかげでスムーズに交流を進めることができた。

### ・「特別支援学級の見学」

幼稚園・保育園の要請があれば、通常学級と特別支援学級のどちらに入学するか迷っている保護者や幼児の見学を随時行ってきた。これにより、保護者が子どもにあった教育環境を具体的にイメージできたり、学校側の入学児童の的確な把握につながったりしている。

## 【考察】

・「6年生と幼稚園年長クラスとの交流」では、今年度と人数が変わっても、2日間に分けたり、園児の参加を年長に限らず年中も含めたりするなど、実態に合わせて計画するとよい。

# 札幌市立前田中央小学校

〒006-0818

手稲区前田 8 条12丁目 2-1

## 【前田中央保育園との連携】

- ・前田中央保育園との連携は、敷地がほぼ隣ということもあり 20 年以上にわたって続いている取組である。
- ・現在は 1 年生が生活科の活動の中で、保育園に出向いたり、学校に招待したりして共に触れあう活動が中心となっている。

6 月 保育士による 1 年生授業参観

10 月 保育園での交流 学習発表会観覧

12 月 しらかば祭り（児童集会）へ招待と案内

2 月 スノーフェスティバル（雪山遊び）

また、児童と園児とが直接触れあう活動だけでなく、園児を学校の行事に招いて、その様子を見たり体験したりもしている。

- ・児童と園児の交流が中心ではあるが、年度初めの授業参観に保育士を招き、授業や児童もの様子について意見や感想をもらったり、年度末近くには、新 1 年生として入学してくる年長児の様子を参観したり、引き継いだりしている。



【保育園での初顔合わせ】



【スノーフェスティバルでの交流】

## 【成果】

- ・学校の中では最年少である 1 年生だが、前の年までは「年長さん」として最年長であるという自覚をもって、様々なことを自分たちでできるようになっている。自分たちより年下の保育園児と関わることによって、自立心を高めることができる。1 年間通して活動を行うことによって、最初は緊張しつつも、回を追うに従って楽しみにしていた。
- ・保育園児の側から見ると、入学が近くなるに連れて、未知の場所である小学校に対して不安をもつが、何回も行き来するうちに次第に小学校にも慣れ、入学当初からのびのびと生活を送る様子が見られる。
- ・保育士に 1 年生の授業参観をしてもらうことで、卒園前の園児にどのような力を付けていくことが必要なのか、小学校との違いを考えながら保育に当たっていただくことができた。

## 【考察】

- ・例年、同様な活動を継続しており、小学校、保育園共に 1 年間の流れが見えているので、一つ一つの取組をスムーズに行うことができる。
- ・1 年生だけではなく、他の学年との交流も検討していきたい。

# 札幌市立稲積小学校

〒006-0815

手稲区前田5条7丁目1-1

## 【保小の連携】

- ・ 保育園が校区内（道路を挟んで目の前）ということから前田保育園長に学校評議員を受けていただいている。
- ・ 以前は、1年生がいなづみ幼稚園と数回の交流をもち、2年生が前田保育園と発表会を通して交流していた。いなづみ幼稚園の閉園に伴い、1年生と前田保育園での交流を行っている。（年5回）



体育館でじゃんけん汽車ぽっぽ

## <児童・園児>

- ・ 6年生の総合的な学習の時間で保育園周辺（学校近隣）の清掃活動に取り組んだ。

（昨年度は作成したポスターを貼らせていただく。）

- ・ 保育園の御神輿活動での中休みの応援
- ・ 学習発表会及び生活発表会をお互いに見合う。
- ・ 授業見学（参加）及び給食交流



一緒に給食

## <教員>

- ・ 入学時の引継及び入学後の情報交流
- ・ 全校研授業への参加を促す。

## 【成果】

- ・ 児童の実態（活動）を見ることができる。
- ・ 保育園児が学校に慣れる。
- ・ 上の学年の児童を見ることで、よい影響を受ける。
- ・ 園児が来るということで、相手意識が芽生え、活動に対する意欲が高まるとともに、相手のことを考えて活動する力に高まりが感じられる。
- ・ 教師と保育士が顔見知りになることで、関わりやすくなり、連携がスムーズになっている。
- ・ 普段と違う場所に行くということで、礼儀面での意識付けになった。
- ・ 発表会では、お互いに見合うことで、意識が高くなる。



御神輿の応援

## 【考察】

- ・ 教職員間のより多く、より深い交流連携（気軽な行き来）。
- ・ 継続することにより、お互いの要望を出しやすくなり、それを実現する方向にもっていきやすい。また、幼児教育から学校教育への円滑な移行に必要なことを共通理解する機会としている。
- ・ 前田保育園から本校にくる児童が多いので、一緒に学校内で活動したり、給食を共にしたりすることで、学校への不安感がなくなったり、学校生活への見通しや期待感がもてるようになる。
- ・ （今年は連携3年目）今後マンネリ化することも考えられるが、お互いの教職員がより深い交流や話し合いをもち、新たな取組に発展することを検討していきたい。

## 【幼稚園との連携】

これまで本校の異校種間連携で目指しているものは、以下の3点だった。

- ・具体的な活動や体験を行うにあたっては、身近な幼児や高齢者、障がいのある児童生徒などの多様な人々と触れ合うことができるようにすること。
- ・教育の連続性と系統性を重視し、一人一人の子どもを継続して見守り育てていくという観点に立ち、授業交流や指導内容等の情報交換を密に行うなど、校種を越えた学校間連携の一層の強化を図ること。
- ・開かれた学校づくりを進め、地域社会や家庭との連携を強化するために、各校種（幼・保・中）や地域との連携を深め、体験学習の充実を図ること。

今年度はさらに、次の点を加えた。

- ・5年生が園児にかかわることで、次年度への意識と責任をもたせる。

当日は、【玄関でのお出迎え】⇒【体育館での遊び（ジャンケン列車、段ボールリレー）】⇒【「小さな世界」の合唱】⇒【5年生の器楽合奏】⇒【学校案内】という活動を行うことができた。

<連携先>

『学校法人 角谷学園 富丘つくし幼稚園』

## 【成果】

- ・できるだけ園児と児童が個々に触れ合える交流の場を設定し、5年生が主体的に動く姿が見られるようになった。
- ・5年生にとっては、「お兄さん・お姉さん」の意識が芽生え、幼児と関わることの楽しさと大変さを実感することができ、次年度への見通しをもつことができた。



【段ボールリレーの様子】

## 【考察】

- ・秋に5年生が幼稚園に行って、遊びの交流をする予定だったが、児童の健康状態の都合で中止になった。年間通しての交流ができれば、もっと親近感をもった活動になると感じた。
- ・近隣で、本校に入学する可能性がある保育園もあるので、少しでも交流ができるように検討していきたい。

【互いに自己紹介している様子】



5年生が優しく聞いてあげていました。